

PHOTOGRAPHS IN THE 90s FROM THE TRAVELOGUE OF WIM WENDERS

ヴィム・ヴェンダース

旅する視線—映画と写真によるトラベログ

1998年6月5日[金]—7月26日[日]

主催= 東京都写真美術館 会場= 地下1階映像工夫館作品展示室 後援= トイソ連邦共和国大使館 協力= アミューズ・松竹富士・電通・フランス映画社
開館時間= 10:00~18:00(木・金は20:00まで) 入館は閉館の30分前まで 休館日= 毎週月曜日(休館日が祝日の場合はその翌日)



東京都写真美術館

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-9
Tel: 03(3780-0931) 1F・3F Mita, Meguro-ku, Tokyo 153-0062

「リスボン物語」1995年



「時の翼にのって」1993年



「愛のめぐりあい」1995年



「エンド・オブ・バイオレンス」1997年

写真はすべて©Wim Wenders



「夢の涯までも」1991年

観覧料= 一般・大学生500円(400円) 高校生250円(200円)
いずれも()内は、20名以上の団体料金。中学生以下、65歳以上の方、および障害のある方とその介護者1名は無料になります。(証明できるものをご持参ください)

「ヴィム・ヴェンダース」展関連連続上映会

- 1 「夢の涯までも」('UNTIL THE END OF THE WORLD', 1991年) カラー 181分 1998年7月4日(土) 14:00-17:00
- 2 「時の翼にのって」('FAREWAY, SO CLOSE!', 1993年) カラー 148分 7月5日(日) 14:00-17:00
- 3 「リスボン物語」('LISBON STORY', 1995年) カラー 104分 7月19日(日) 14:00-16:00
- 4 「愛のめぐりあい」('BEYOND THE CLOUDS', 1995年) カラー 110分 7月20日(月) 14:00-16:00
- 5 「エンド・オブ・バイオレンス」('THE END OF VIOLENCE', 1997年) カラー 122分 7月26日(日) 14:00-16:00

*英語版日本語字幕付
会場= 東京都写真美術館 1F ホール (先着200名、展覧会チケット提示のこと)

展覧会予告: 「奥山順市」展 1998年7月31日—9月27日
展覧会のご案内: ハローダイヤル 03-3272-8600
<http://www.tokyo-photo-museum.or.jp>



交通機関= 京浜東北線東口より徒歩7分(恵比寿ガーデンプレイス内)
お車での来館はご遠慮下さい。

映像工夫館では、テーマ展「イメージという魔術」にあわせた作品展の第1回目として、一人の映像作家の活動から、「映画」と「写真」という相関関係にある映像表現を探る試みとして、「ヴィム・ヴェンダース: 旅する視線—映画と写真によるトラベログ」展を開催します。

ヴィム・ヴェンダースは、映画監督として活躍する一方で、写真家としての活動をつづけている映像作家です。初期の代表作である『都会のアリス』(1974)から、最新作の『エンド・オブ・バイオレンス』(1997)にいたるまで、ヴェンダースの視線の行方は映画と写真によって綴られてきました。すでにニュー・ジャーマン・シネマの旗手として、また、国際的に成功した映画監督として、つぎつぎと話題作を発表してきたヴェンダースは、1987年に出版された最初の写真集『WRITTEN IN THE WEST』以降、世界各地で精力的に写真展を開催しています。映画の撮影の合間に、あるいはプライベートな旅の途中で撮りためられた作品は、いずれも彼独自の視点を強調する感覚と、写真への深い愛情を感じさせるものとして、映画とともに高い評価を得ました。

この展覧会では、日本未公開のパノラマ作品を含む、全50点のヴィム・ヴェンダースの写真作品の展示と、彼自身が監督した90年代の代表的な映画作品の上映を通して、映像表現の豊かさとその可能性、そして何よりも映像作家ヴィム・ヴェンダースの魅力を観覧します。